

軍令部

我愛我

午後一時細雨、薄長蒲深雪、何にも不在。寧
牙宿、軍の序負、三屯洗し、後、庚之太化著、幾、海

ノ出に因まかり
テ有る局に因り

五月廿五日

羅

民國十三年十二月

九
七
一

其方月、金の保津をぬ

曲定今軍部為之

民國二年五月廿六日（第二卷）

本日午後ニ時電話ニテ本件に關し申々事明確實之期
に入属在、要領捕載候々

(一) 杖裏十一行目、而モ新ニ他ノ方向ヨリ射撃

(二) 五叔表十行月、
新方何ヨリ我來る射彈、爲我損害

益々甚なり

十二件 庫本部ニ於テ、義合會所、他、民間銀行トナシタル場合

漢軍大臣各執說明
其下異議又世臣

聯合代表：金士恩 元

世軍令の部員ニ於テハ大原三郎見ニ合シテ

即チ條件附ト御承知相成度貴上司御上見承知度

(三) 附圖ニ支那砲艦位置等ヲ抹殺除去相成度

(四) 五枚表十三行ヨリ表ニ行返テ左ノ通り改正相成度

世軍令部ニ送ル事ヲ難シ洵ニ残兵布隊ヲテ壯烈ナル

戦況ヲ承テタリ

尼港三月事變之顛末

軍務局

陸軍省

第二課

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

9.7.6

大正九年七月三日

海陸軍省

0214

尼港三月事變之顛末

本事變前後ノ情況ハ當時日本側ノ通信杜絶シアリタルノミナラス關係者悉ク殉難シテ其ノ真相ヲ詳ニスルヲ得ス僅ニ我殉難者ノ日記、記錄、居住民ノ言其ノ他ニ依リ斷片的ニ情況ノ一端ヲ窺知シ得タルニ過キササルヲ以テ其ノ正鵠ヲ期シ難キモ不取敢前述ノ資料ヲ基礎トシ經過ノ概要ヲ叙述スレハ左ノ如シ

大正七年西伯利派兵以來尼港ハ大ナル變動モナク經過シタルカ八、九年ノ交西伯利各地ノ過激派擡頭ヲ來タスニ及ヒ九年一月中旬以來尼港ニ於テモ過激派軍逐次同地ニ近迫シ同月下旬ニ至リテハ遂ニ「チヌイラフ」要塞ヲ占領スルニ至レリ

二月五日我海軍無線電信所及同所附近ノ陸軍守備隊ノ一部ハ過激派軍ノ砲撃ヲ受ケ電信室破壊セラレ通信不能ニ陥リシニ依リ七日同地ヲ撤シテ尼港守備

0215

隊主力ニ合シ爾來海軍無線電信隊ハ專ラ領事館ノ直接護衛ニ任セリ
二月二十四日午前九時我守備隊長ハ過激派軍指揮官ノ通牒ニ接ス其ノ要旨ニ
曰ク「今後徒ラニ犠牲ヲ拂ハンコトヲ避クル爲協商ヲ開始シタキ希望ナリ依
テ二月二十四日午後六時迄ニ日本軍ノ使者ヲ過激派軍本部ニ差遣セラレタ
シ」ト依テ守備隊長ハ右提議竝ニ二月二十三日附對過激派軍態度ニ關スル師團
長ノ訓電ニ基キ委員ヲ過激派軍ニ差遣シ相互協議ノ結果二月二十八日午後五
時ヲ以テ協定成立ス

該協定事項ハ未タ其ノ正文ヲ發見セサルモ多數ノ避難民ヲ調査シテ得タル所
ニ依レハ其ノ要旨概ネ左ノ如シ

一 日本軍及赤衛軍ヨリ各歩哨ヲ配置シ警戒ニ任シ尼港ノ安寧秩序ヲ圖ル

コト

二 赤衛軍ハ裁判ナクシテ一般市民ニ對シ銃殺ヲ行ハサルコト

三 赤衛軍ハ一般市民及白衛軍ヲ捕縛シ又ハ掠奪ヲ行ハサルコト

二月二十九日過激派軍入市スルヤ右協定條件ヲ無視シ露國尼港守備隊將校及官吏富豪等五百餘名ヲ捕ヘテ獄ニ投シ所在掠奪ヲ行ヒ日ヲ經ルニ從ヒ其ノ兇暴益々甚シク投獄虐殺相踵キ支那人約一千、朝鮮人約五百ヲモ集メテ部隊ヲ編成シ以テ其ノ勢力ヲ張り市街ヲ横行スルニ至レリ

此ノ間過激派軍カ革命記念日ヲ期シ日本人鑒殺ノ企圖ヲ有ストノ風評專ラナリシカ三月十一日午後過激派軍參謀長「ナウーモフ」ハ守備隊本部ニ來リ日本軍全部ノ武裝解除ヲ要求シ若シ之ニ應セサルトキハ武力ニ訴フヘク其ノ回答ヲ十二日正午迄ニ爲ズヘキ旨ヲ述ヘテ去レリ是ニ於テ我守備隊長石川少佐ハ最早戰鬪ノ避ク可ラサルヲ察シ石川、三宅兩海軍少佐及石田領事ト協議ノ結果荏苒時刻ヲ遷延スルトキハ彼我兵力ノ關係上甚シキ危險ニ陷リ我居留民ノ安全ヲモ保障シ得サルニ至ルヘキヲ慮リ自衛上斷然十二日午前二時ヲ期シテ敵ヲ攻撃スルニ決シ直ニ之ヲ我官民ニ傳フルト共ニ左ノ部署ヲ爲セリ

一 水上大尉ノ指揮スル第十二中隊（一小隊缺）機關銃二ハ過激派軍本部ヲ

三

0217

8120

攻撃ス

四

二 後藤大尉ノ指揮スル第十一中隊(一小隊缺)機關銃一八支那町方面ヨリ西方ニ向ヒ敵ヲ掃蕩シ一部ヲ以テ軍用交換所ヲ攻撃ス

三 石川少佐ハ自ラ六十名及機關銃一ヲ率キテ豫備隊トナリ水上隊ニ協力シテ敵本部附近ノ敵ヲ攻撃ス

四 海軍無線電信隊ハ一部ヲ以テ實業學校ノ敵砲ヲ奪取シ主力ヲ以テ教會堂附近ノ敵ヲ攻撃ス

五 第十二中隊ノ一小隊及傷病者ハ兵營ノ守備ニ任ス

十二日午前一時三十分諸隊ハ行動ヲ起シ水上隊及石川隊ハ敵本部及其ノ西方約七十米ノ市民俱樂部ノ敵ヲ包圍攻撃ス首領「トリヤピーツイン」ハ負傷シ幕僚「ニーナ」等ト共ニ纔ニ身ヲ以テ免レ我戰勢極メテ有利ニ發展セシカ「クンスト」商會ニ在リシ副統領「ラフタ」ハ我攻撃ノ衝ニ中ラサリシヲ以テ直ニ其ノ部下ヲ督勵シテ應戰ニカムルト共ニ各所ニ散在セル過激派軍ヲ糾合シ又

5180

0218

「バルチザン」第一聯隊長「アムール」モ部下兵力ヲ集結シテ我攻撃ヲ阻止シ殊
ニ其ノ一部ハ我側背ニ迫リ形勢逐次不利トナル斯克シテ時ノ移ルニ從ヒ敵兵
ハ市外ヨリ續々増加シ來リ家屋内ヨリ猛烈ナル射撃ヲ加ヘツツ逐次家ヨリ家
ニ移リテ我ニ逼ルニ及ヒ我兵奮戰屢々壯烈勇敢ナル突撃ヲ敢行シタルモ周圍
ノ家屋ハ盡ク敵ノ占領スル所トナリ暴露セル我兵ハ忽チ死傷續出シ午前二時
三十分頃ニ至リ守備隊長石川少佐重傷ヲ負ヒテ戰死シ横錢副官、石川軍醫、
窪田通譯並通信員岩井工兵上等兵等相次テ戰死シ爾後戰況益々不利ニ陥リ天
明ト共ニ愈々苦戰惡闘ヲ續ケ將校以下其ノ大部ハ茲ニ壯烈ナル戰死ヲ遂ケタ
リ高内主計ハ負傷ニ屈セス兵卒僅ニ三名ヲ率キ日没ヲ待テ敵中ヲ突破シ午後
七時三十分大隊本部ニ歸還ス

水上隊ハ石川隊ト共ニ力戰奮闘大ニ努メタルモ前述ノ如ク家屋ニ據レル敵ノ
猛射ニ依リ死傷頻發シ遂ニ石川隊ト離隔セルノミナラス後藤隊トノ連絡ニ努
メタルモ敵ノ抵抗益々甚シク目的ヲ遂行スル能ハス既ニシテ天明トナリ敵ノ

勢力愈々加ハルニ反シ我ハ已ニ三分ノ二ノ兵力ヲ失ヒ而モ友軍ノ情況全ク不明ナリシヲ以テ一家屋ヲ利用シテ之ニ據リ猛烈ナル敵ノ砲撃及小銃火ヲ浴ヒツツ奮戦健闘ヲ續ケテ日没ニ至リシカ此ノ時他方面ノ銃聲全ク熄ミ我ヲ包圍スル敵ノ銃聲竝爆音ヲ聞クノミ是ニ於テ中隊長水上大尉ハ兵營ニ歸リテ後圖ヲ爲サント欲シ十三日拂曉殘兵二十餘名及機關銃一ヲ提ケ市街各所ノ家屋ヨリスル敵ノ妨害ヲ排除シツツ前進中水上大尉以下十數名ノ戰死者ヲ出スニ至リ河本中尉ハ殘兵十數名及機關銃一ヲ率テ敵ヲ突破シテ兵營ニ歸還ス

後藤大尉ハ支那町方面ヨリ西方ニ向ヒ前進中主力方面ニ於テ盛ナル銃聲ノ起ルヲ聞キシカ間モナク敵ハ沿道家屋ヨリ俄然我ニ向ヒ射撃ヲ開始セシヲ以テ直ニ之ニ應戦シ茲ニ猛烈ナル市街戦ヲ惹起シ敵ヲ突破シテ奮進シ一部ヲ以テ軍用交換所ヲ占領シ中隊ノ主力ハ依然西方ニ前進ス然ルニ敵彈雨注シ加フルニ家屋内ヨリ敵ノ投下スル手榴彈ノ爲塚本中尉以下死傷相踵キ漸ク苦戦ノ情況トナル後藤大尉以下奮戦以テ主力方面ニ策應スルニ努メタルモ敵ハ其ノ兵

力ヲ増加シテ我ヲ包圍スルニ至リ天明ト共ニ形勢益々非ニシテ難戰苦闘其ノ極ニ達ス後藤大尉ハ部下ヲ激勵シ突撃ニ次クニ突撃ヲ以テシ遂ニ一條ノ血路ヲ開キテ市場棧橋北側附近ニ達セシモ後藤大尉以下將校特務曹長皆斃レ創ヲ裏ンテ戰フモノヲ併セ僅ニ三十名ニ足ラス而モ新ニ他方向ヨリ射彈連リニ同隊附近ニ飛來シ忽チ十數名ヲ殺傷スルニ及ヒ我兵奮進勇敢ナル突撃ヲ試ミタルモ前後ヨリ猛射ヲ受ケ遺憾ナカラ後藤隊ノ殘兵ハ悉ク壯烈ナル戰死ヲ遂ケタリ

海軍無線電信隊ハ一部ヲ以テ實業學校ニ在リシ敵砲二門ヲ襲撃シテ之ヲ奪ヒ其ノ樞要部ヲ脱シテ持チ歸リ主力ハ教會堂附近ノ敵ヲ攻撃セシモ敵ノ抵抗頑強ナルノミナラス敵兵漸次増加シテ我ヲ包圍シ猛火ヲ注キ死傷續出苦戰ノ情況ニ陥リシヲ以テ退テ領事館ヲ守備セシカ敵兵ハ忽チ同館ヲ包圍シテ猛烈ニ攻撃シ來リ石川海軍少佐以下勇戰奮闘屢々敵ヲ撃退セシモ敵兵愈々増加シ殊ニ天明ト共ニ他方面ヨリノ猛射ヲ蒙ムルニ及ヒ我損害益々甚シク石川海軍少

七

0221

9990

佐以下多數ノ死傷者ヲ生シ形勢頗ル非ナルニ至リ石田領事及其ノ家族並三宅海軍少佐等悉ク難ニ殉シ殘兵亦舉テ壯烈ナル戦死ヲ遂ケタリ
憲兵隊ハ其ノ宿舎ニ在リシカ後藤中隊ノ來リ會スルヤ協力奮戦大ニ努メタルモ衆寡敵セス死傷相踵キ後兵營ニ向ハントスル途中悉ク戦死セルモノノ如シ
守備隊本部ニ於テハ兵卒三名ヲ率キテ歸還セル高内主計以下防戦大ニ努メタルモ全ク敵ノ包圍スル所トナリ危険刻々切迫スルニ至リシヲ以テ重要書類等ヲ悉ク焼却シ十二日夜中隊兵舎ニ移リ中隊殘留者ト共ニ極力防戦ニカム
十三日午前四時三十分頃河本中尉ハ兵卒十數名及機關銃一ヲ率キ又疊ニ軍用交換所ヲ占領セシ後藤隊ノ一部モ共ニ敵ノ重圍ヲ突破シ歸還セシヲ以テ此ニ
中隊兵舎ニ現存スルモノ負傷者ヲ合シ合計百名（陸軍病院尼港分院ニ在リシ職員及患者二十餘名ヲ含マス）ヲ算スルニ至レリ
中隊兵營ニ集マリシ殘存者一同ハ相協力シテ防戦ニ力メシカ敵ハ兵舎ノ周圍ニ散兵壕ヲ構築シテ我ヲ包圍シ機關銃及小銃ヲ以テ猛射スルノミナラス十三

日天明ト共ニ砲撃ヲ開始シ特ニ支那町附近ニ在リシ二十珊榴彈砲ヨリスル巨
彈ノ爲兵舎破壊セラレ危険刻々ニ迫レリ然レトモ殘存者一同ハ殊死奮戦シテ
毫モ屈スル色ナク十七日ニ至ル五日間晝夜間斷ナキ猛烈ナル敵ノ攻撃ニ對シ
全員協力死守シテ敢テ撓マス傷病兵亦銃ヲ執テ起チ悲慘悽愴其ノ極ニ達ス
然ルニ十七日午後五時過激派軍ハ河村通譯 三月十二日我軍夜襲ノ當時凍傷ノ爲入院シ
在リシモノナルカ此ニ至リ敵ニ拉致セラレ
タルモノヲ伴ヒタル使者ヲ派シテ哈府日露兩軍代表者ノ電報ヲ示シ極端ニ戰鬪
ヲ中止シ速ニ戰鬪行爲ヲ停止スヘキ旨ノ勸告ヲ提議ス

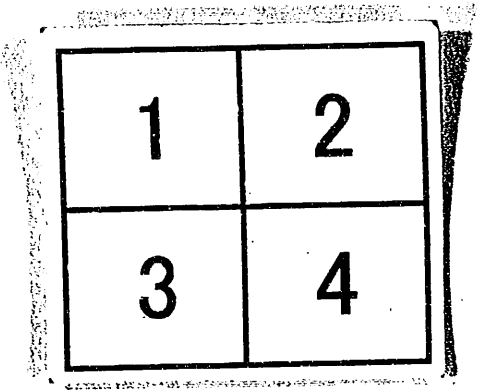
我殘存者ハ連日ノ激戦ニ依リ其ノ大部ハ既ニ負傷シタルニ拘ハラズ決死尙最
後ノ奮戦ヲ試ミツツアリシモ今ヤ旅團長ノ電報ヲ受領シ之ニ從フノ已ムナキ
ニ至リ翌十八日早朝萬斛ノ涙ヲ吞ンテ戰鬪停止ノ旨ヲ過激派軍ニ通告セリ之
ト共ニ我殘存者一同ハ遺憾ナカラ彼等ノ爲武器ヲ奪取セラレ午前十時民兵々
舍ニ移リシカ十九日無法ニモ投獄セラル

本事變ニ於テ過激派軍ハ其ノ野獸性ヲ發揮シ在留邦人ハ老幼男女ヲ問ハス索

メテ之ヲ虐殺シ其ノ財貨ヲ奪ヒ又既ニ投獄シアリシ資産及有識階級ノ露人約四百六十餘名ヲ慘殺シ其ノ家屋財貨ヲ擧テ悉ク之ヲ掠奪シ殘忍暴虐至ラサルナク一面我殘存者ニ對シテハ頗ル粗惡ナル給養ヲナシ且苛酷ナル勞役ヲ課シタルモノノ如シ而シテ我救援隊ノ漸次近接スルヲ知ルヤ五月二十四日夜半ヨリ二十七日ノ間ニ於テ過激派軍ノ手ニ在リシ我殘存者全部ヲ慘殺セルモノノ如ク百二十二名ノ我同胞ハ救援隊ノ來著近キニアルヲ知リツツ無殘ニモ悉ク過激派軍ノ毒刃ニ斃レタリ

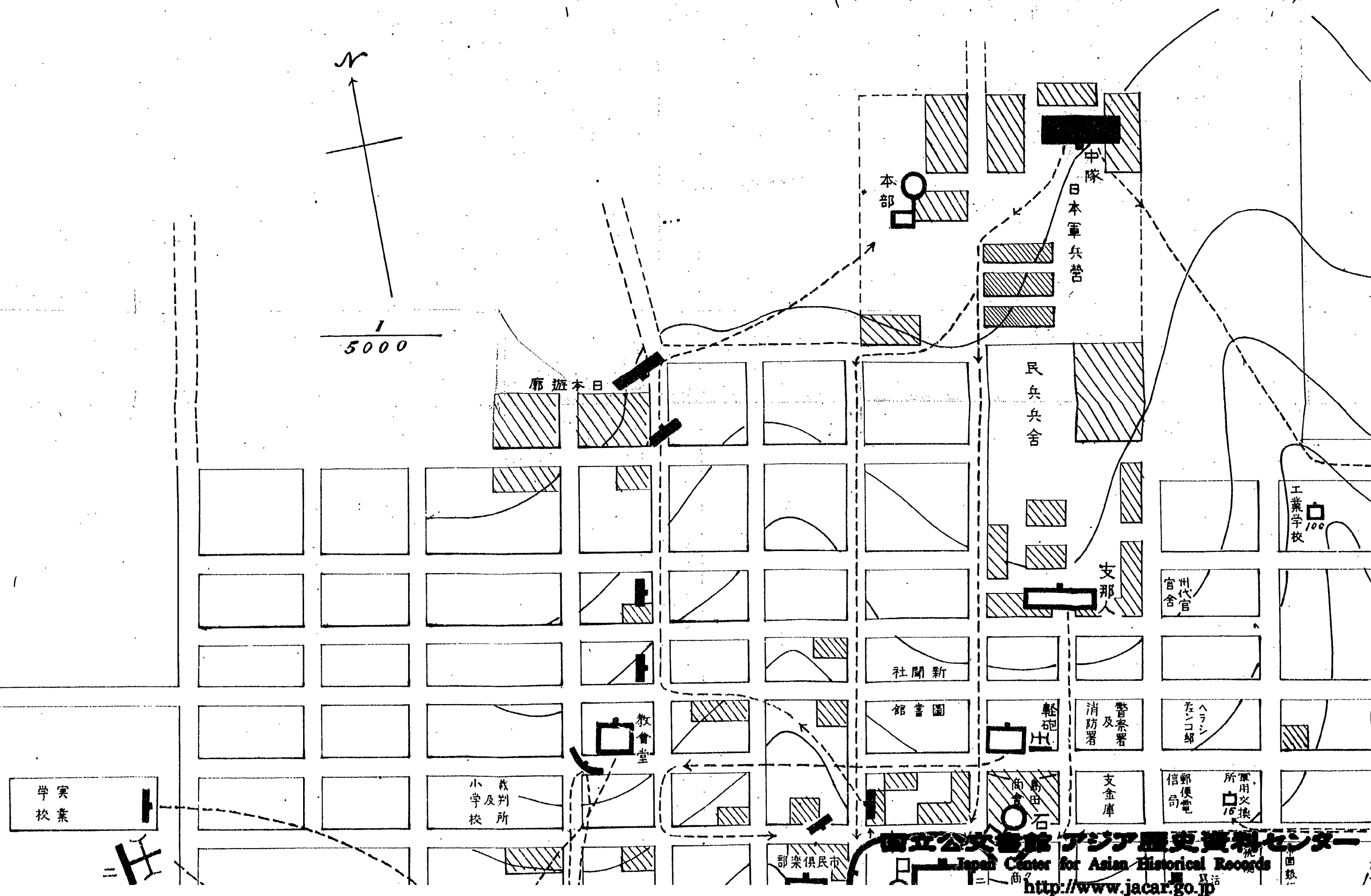
斯ノ如クニシテ彼過激派軍ハ入市以來少クモ五千人ヲ虐殺シ暴戾ノ極ヲ盡シタル後尼港全市ヲ焦土ト化シ我軍ノ上陸ニ先チ逸早く「アム・グン」上流方向ニ遁走セリ今ヤ尼港附近ノ露國住民ハ漸ク其ノ虐政ノ苦ヲ脱シ得タルヲ喜ヒ救ヲ我軍ニ求ムルモノ日ニ數百ヲ算スルノ情況ニアリ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

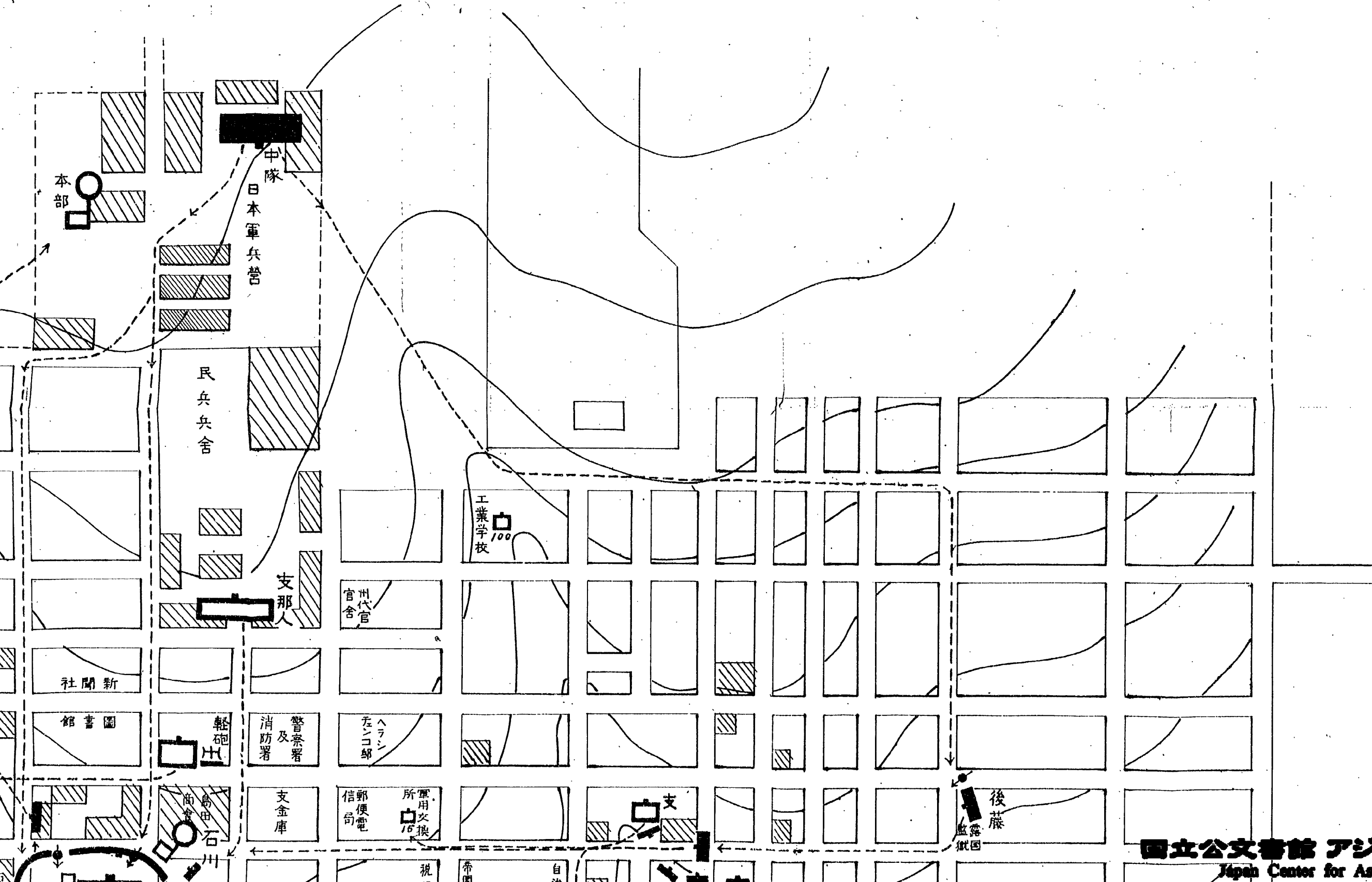
0227
0228

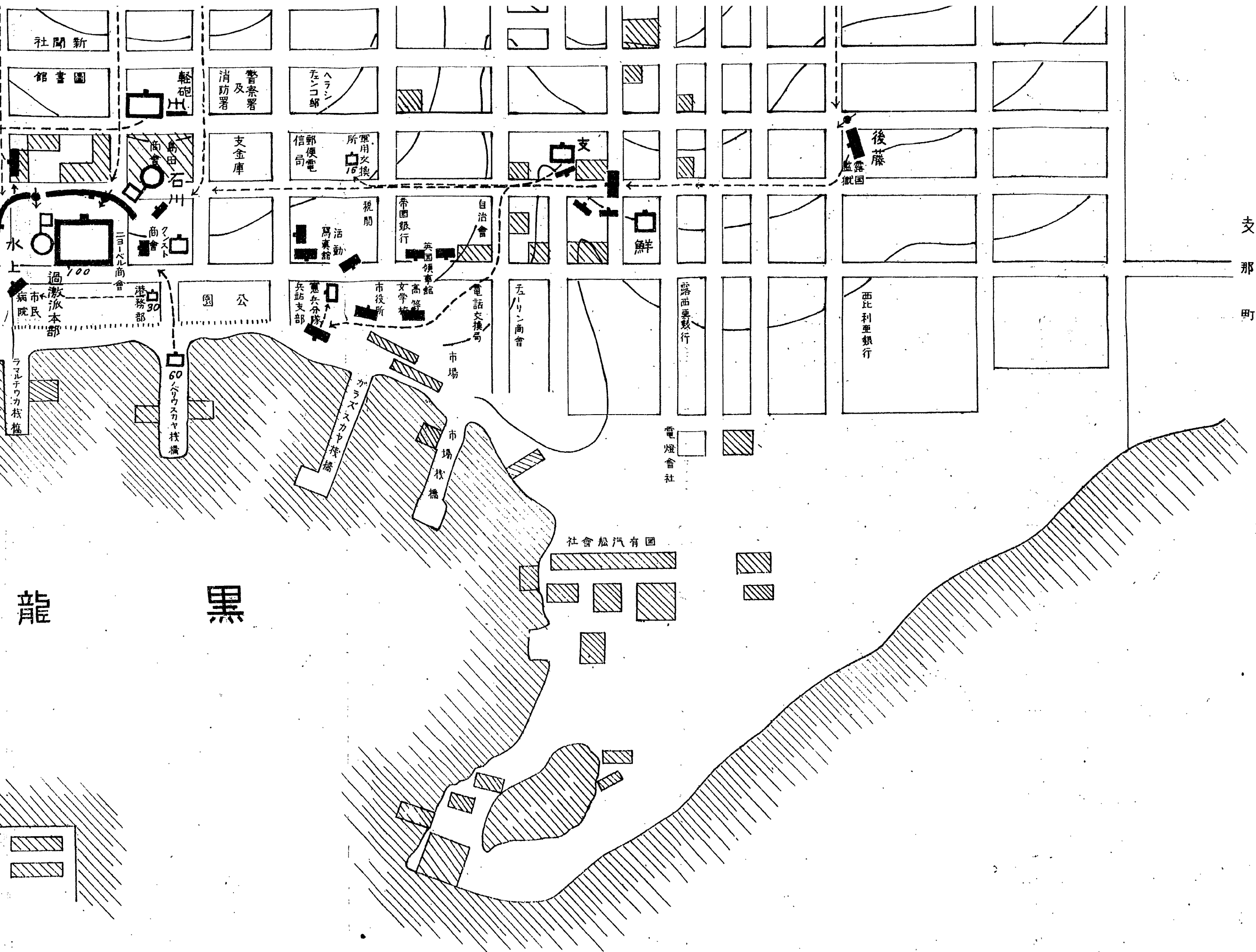
(ルケ於ニ后以時三前午日二十月三)



尼 港 守 備 隊 戰 闘

(三月二十日午前二時以後に於ける)





32
12/14

尾港事件

海

軍

昭和十三年三月

（昭和十三年）

0229

決し七月三日中外之ヲ宣ふセリ

計テ七月二十九日 茨城縣知事、元々自領地ニ「尾崎連州」を
 一軍司令官ヲ授ケ、件ノ前定ニシテ陸軍ニ「尾崎」ヲ中トシ
 附近ノ荒地又民地泥濘方面ニ、女軍士兵カヲ配備シ、夏期
 毎軍ト協同シ、今方面ノ治安維持ニ任セシメ、大別尾尾方面ハ
 駐兵困難ナキ事情アリシヨリテ陸軍ニ全部大連方面ヲ移
 送シ、擇々ニアリテ之ヲ守ルベシ

母軍、昨同司令官、指揮を以て航氷より陸軍へ
 来るもの以外、本正平七月二十日臨時母軍防備
 隊に編成し奉り、宜原、安永、等之航氷に長官、
 夏期、押収路砲航より見守部は、警戒係任し、冬期も
 之航氷より、撤退後、一重砲を以て砲航に監視、又冬季

海

軍

後遺中類十三行各段

大正十三年三月廿五日陸軍省より現行維持たる海軍の臨時
海軍省備案の外解氷船同航船ノ行動等々(ナモ)より大正
十三年比較し之ヲ減少せしむへん案定ナリ

(監心堂印)

0233

大正九年六月十七日

尼港事件經過覺

一、海軍兵力ノ尼港進出

(一) 兵力及時期

大正七年八月二日田所少將ノ率ユル第三水雷戰隊（阿蘇、千早第二、第五、第二十五驅逐隊）「デカストリ」著同司令官ハ即日千早及第五驅逐隊ヲ直率シ尼港ニ進出ス

越テ八月二十六日有馬中將ノ率ユル第三艦隊主力「デカストリ」ニ到著ス

(二) 進出ノ理由

獨逸勢力東漸シ且巧ニ過激派ヲ使シ極東ニ於テ敵對行爲ヲ企圖スル者増加シ尼港方面又危險ナリシヲ以テ帝國及與國居留民保護ノ爲

(報文計納)

0234

(三) 海軍陸戰隊ノ揚陸

我海軍兵力ノ出現ト共ニ小康ヲ得タルモ暫時ニシテ尼港方面ノ
内爭再發愈其ノ度ヲ加ヘシヲ以テ所在及外人ノ懇請ヲ容レ九月
九日第三艦隊ハ陸戰隊(三ヶ中隊編成)ヲ揚陸シ何等抵抗ヲ受
クルコトナク砲臺、兵營等ヲ占領シ武裝解除ヲ實施ス

陸戰隊ハ陸軍守備隊ノ來著ヲ待チ之ニ任務ヲ引繼キ撤退セリ

二、陸軍兵力ノ尼港進出

(一) 兵力及時期

大正七年九月二十四日^令府第十二師團ヨリ分派ヤル一部隊(第
二十四聯隊第二大隊(第二中隊缺))ニ港著海軍陸戰隊ヨリ任
務ヲ繼承シ爾後同方面ノ守備ニ任ス

(二) 進出ノ理由

海軍艦艇引揚後依然尼港方面ノ治安維持及帝國並與國居留民保

(報文計納)

護ニ任スル爲

三、海軍無線電信隊存置ノ對露國民理由

海軍無線電信隊存置ハ尼港所在露國官民ノ容請ニ職由ス之カ經緯
左ノ如シ

從來尼港ニハ官用及軍用無線電信所ノ二アリ前者ハ一般通信用ニ
充當シ狀態完備ヤシモ後者ハ殆ント廢棄ノ狀態ニアリ

海軍同方面作動中九月二十四日「サハクン」州自治廳長シヨルニ
コフハ自治廳ノ名ニ於テ尼港ハ府間ノ電線屢故障ヲ生シ中央トノ
通信不便ナルヲ以テ官用電信破損ノ場合若ハ隔遠隔ノ地點トノ通
信ノ場合私報公報共軍用電信ヲ以テ通信シ得ル様許可セラレタキ
旨請願アリタルヲ以テ有馬司令長官ハ之ヲ容認シ軍用無線電信所
ノ修復及勢力ノ増大ヲ行ヒ無線電信隊ヲ存置セリ

（備考）大正九年二月同隊員

（報文計納）

0236

海 軍

石川海軍少佐以下士官五、特務士官二、下士官十二、兵二十五 計四十三名

四、無線電信隊ヲ殘シ海軍兵力ノ引揚

(一) 時期

第三水雷戰隊ノ大部ハ大正七年十月五日先ツ尼港ヲ去リ十月十四日第二十五驅逐隊ノ二隻尼港ヨリノ來著ヲ待チテ「カストリ」灣ヲ出發セリ

(二) 理由

結氷期ニ近ツキ艦艇ノ策動困難ナルニ付
五、大正七年末ヨリ大正九年初頭迄ノ尼港方面情勢
「オムスク」政府ノ勢力増進ニ反比例シテ過激派ハ漸次消落シ尼港方面又何等危懼スヘキモノナク我陸軍守備隊及自衛軍一個大隊

(報文計納)

0237

ヲ以テ善ク同方面ノ治安ヲ維持シ得ルノ情勢ニアリ

六、海軍海上兵力最後尼港出現時期

大正八年夏第三水雷戰隊ノ一部（千早第七驅逐隊第十一艇隊）ハ小林司令官指揮下ニ再ヒ尼港ニ回航セシカ九月二十二日ヲ以テ同港ヲ引揚ケタリ之ヲ以テ我海上武力尼港出現ノ最後トス

七、大正九年過激派ノ跳梁

一月上旬「オムスク」政府ノ豫期セサル没落ニ伴ヒ過激派隨所ニ據頭活躍ヲ再始シ尼港方面又危殆ニ頻セリ

八、大正九年過軍トノ衝突

（一）攻撃ヲ受ケタル始期

一月二十七日朝過激軍約三十人「チヌイラフ」砲臺ニ侵入シ我陸軍管理ノ糧秣倉庫ニ手投彈ヲ投シ我守備兵直ニ之ヲ撃退ス然レトモ此敵ハ引續キ「チヌイラフ」砲臺ノ一部ニ占據シ砲ヲ修

（報文計納）

理ス

(二) 海軍無線電信所ノ被攻撃

海軍無線電信所ハ二月五日ヨリ前記過激軍ヨリノ砲撃ヲ受ク

(三) 海軍無線電信隊ヨリノ最後通信

二月六日過激派軍ヨリノ砲撃甚シク爲ニ電信室ノ一部破壊セラレタルヲ以テ電信隊ハ守備隊ニ合同ヤントシ電線電信所ヲ焼却スルニ先タチ發電ヤルモノヲ以テ最後トス二月六日午後十一時發電ノモノ實ニ之ナリ

越テ三月十日ニ至リ赤衛軍無線電信所(舊官用電信所)ヲ經由シ石川無線電信隊長ヨリ大臣宛二月二十四日赤衛軍ヨリ休戦提議尙二十八日ヨリ休戦赤衛軍ニハ多數ノ支那人朝鮮人アリ樺原機関大尉ノ戦傷死亡等ヲ報告シ併ヤテ三月十四日以後無線ヲ使用ヤサル旨ヲ附報ヤシカ爾後全然通信杜絶ヤリ

(報文計納)

0239

九、尼港救援處置

(一) 第一回企圖

大正九年二月中旬海軍掩護下ニ救援隊ヲ派遣セント欲シ計畫準備何レモ進捗ヤシカ軍艦^{見馬}ノ揚陸地點偵察ニ依レハ達^達且海峽中央ニ於テ一帯堅氷ノ鎖ス所トナリ到底「デカストリ」ニ近接シ得ヘクモアラス又樺太方面ハ氷厚比較的薄キモ亞市方面海岸ニ於テ氷原ハ海流ニ伴ヒ移動シツツアリテ上陸不可能ナルノ情勢ニシテ適當ナル揚陸地點ヲ發見スル能ハサリシヲ以テ三月上旬遂ニ本企圖ヲ中止延期セリ

(二) 第二回企圖

達^達且海峽方面解氷期トナルニ及ビ四月中旬再ヒ救援軍派遣ニ着手ス先遣部隊ハ三笠^{見馬}石見^{見馬}掩護ノ下ニ樺太亞港ヲ經テデカストリニ進出シ恰モ^{見馬}府ヲ下降シ來レル臨時海軍派遣隊(中村海

(報文計納)

軍少將指揮ノ掩護ノ下ニ六月三日尼港ニ進出セリ

第三艦隊主力ハ救援軍主力ヲデカストリニ掩護シタル後間宮海

峽水路清掃ニ從事シ今尙繼續中ナリ

一〇、尼港守備軍ノ最後

今日迄ニ知り得タル情報ヲ綜合スレハ左ノ如シ

(一)海軍無線電信隊員

二月六日夜半海軍無線電信所撤退後敵ヲ突破シ守備隊本隊ニ合

同(コノ時榊原機關大尉戰傷死亡)二月二十四日一旦赤衛軍ト

和議成立セシカ三月十二日戰鬪再始電信隊員ハ帝國領事館防衛

ニ任シ全部戰没セリ同日三宅軍令部參謀モ又戰没ス

(二)陸軍守備隊員

三月十一日赤衛軍ハ日本軍ニ對シ十二日正午迄ニ武裝解除ヲ要

求シ來リタルヲ以テ之ヲ拒絕シ十二日午前二時ヨリ戰鬪開始守

海 軍

備隊長以下大部分戦没ス生存者モ救援軍來著ニ先タチ五月二十
五日頃迄ノ期間ニ於テ座殺セラル

(報文社抄)

0242

大正九年六月十七日

一、支那砲艦尼港冬營ニ關スル經緯

支那砲艦三隻（江亨、利終、利捷）及運送船曳船各一ハ大正八年七月十九日上海發釜山、浦潮、「デカストリ」ヲ經テ九月二十五日尼港著同隊ハ察スルニ露國政府ノ勢力失墜ヤルニ乘シ年來ノ懸案タル黑龍江通航ヲ決行セント欲セシモノノ如ク豫メ「オムスク」政府ニ對シ黑龍江通航承認ヲ要求セシモ拒絕セラレ僅ニ尼港迄ノ進出及同地ニ於ケル冬營ニ關シ認諾ヲ得タリ然ルニ十月十八日ニ至ルヤ砲艦三隻ハ無斷通航ヲ開始シ哈爾濱府附近ニ到達ヤシカ十月二十五日露軍ノ砲撃ニ遭ヒ退却下航ヤシカ時恰モ十一月初頭ニシテ間宮海峽結氷ヲ始メ居リタルヲ以テ茲ニ不得止冬營ニ決シ本年五月下旬迄尼港ニ掩留シタル後尼港上流約十六哩ナルマゴニ錨地ヲ變シ現ニマゴニ在泊中ナリ

（報文社納）

0243

情勢右ノ如キヲ以テ支那砲艦ハ在留民保護等ノ目的ヲ以テ尼港ニ派遣セラレタルモノニ非ラス又同艦ノ冬營ハ四圍ノ情勢上止ムヲ得サルニ出タルモノナリ

支那砲艦要目 附表

二、尼港ニ帝國海軍艦艇ヲ冬營セシメサル理由

海軍艦艇ヲ尼港ノ如キ結氷地ニ冬營セシムルハ左記理由ニ依リ全然海軍威力ノ意義ヲ減却スルモノナルヲ以テ苟モ一艦一艇ヲモ忽ニスルヲ許ササル帝國海軍ニ於テハ實行上甚大ノ顧慮ヲ必要トス

(一) 近寒ノ地ニ冬營スル艦艇ノ砲熾ハ之ヲ使用スルヲ得ス蓋シ防寒諸施設ノ爲旋回俯仰等ニ支障アルノミナラス之ニ支障ナク裝備シ得ヘキ砲熾ハ口徑少ナル機砲等ニシテ陸上戰敵ニ對シテハ效力皆無ニ近シ

(二) 蒸汽管等ハ凍結破壞ヲ防止ヤンニハ部分的ニ之ヲ脫離シ置ク必

(報文社納)

要アリ

(三) 乗員ハ艦内ニ居住スルヲ得ス

前述ノ次第ナルヲ以テ海軍艦艇ヲ冬營セシメ之ヲ以テ警備ノ效果ヲ收メントスルハ不可能事ニ屬ス例令冬營ハ支那軍艦ノ如ク之ヲ爲シ得ルトスルモ警備ノ任務ヲ盡スハ事蓋シ至難ナリ況ヤチヌイラフ砲臺ノ占領及守備隊ノ駐屯ハ如斯警備ヲ必要トセサリシヲ於テオヤ返寒ノ地ニ我海軍現有艦艇ヲ冬營セシメ依テ以テ警備セシムルノ不可能ナルハ敍上ノ如シ之レ尼港守備軍ニ海軍艦艇ヲ加ヘサリシ理由ナリ但シ返寒設備ニ關シテハ今尙研究中ナルヲ以テ若之カ解決ヲ得ハ今後必要ナル地點ニ派遣スルハ敢テ異議ナキ所ナリ

三、本年初頭救援不可能ナリシ理由

大正八年初頭ヨリ西比利亞ノ形勢漸ク平靜ニ復シ過激派ノ凋落ト

(報文社稿)

0245

共ニ極東ノ平和漸次確保サレントスルノ情勢ナリシヲ以テ同年夏期増兵可能ナル時期ニ於テ難カ西比利亞ノ紛糾其ノ今日ノ如クナルヘキヲ豫測シ得ンヤ即チ當時ノ情勢ニ於テハ尼市ハ我守備隊二個中隊及衛軍一個大隊ヲ以テ安全ニ警備越年シ得ヘシト推定スルノ必シモ無稽ニ非サリシカ乎ソ知ラン九年初頭ニ至リ「オムスク」政府ノ急激ナル没落ニ次テ地方過激派ノ跳梁隨所ニ報ヤラレニ市又危殆ニ頻ヤントスルノ情報ニ接ヤリ茲ニ於テ政府ハ二月中旬旬救援軍派遣ニ決シ陸軍ハ小樽ニ救援軍ノ集合ヲ命スルト共ニ海軍ニ於テハ之カ揚陸地點ノ偵察ヲ行フニ決シ二月十四日軍艦見島ヲ簡派シテ尼港ニ最近ナルデカストリ灣方面ノ觀察ニ任ヤリ然ルニ同艦ハ韃靼海峽ノ中央ニ達スルヤ一帶堅氷ノ閉ス所トナリ進退ノ自由ヲ失ヒシノミナラス飛行機ノ偵察ニ依ルモデカストリ方面ハ一面ノ堅氷ニシテ軍艦ヲ以テスルモ尙且近接シ得ヘクモアラス

(報文計納)

運送船ノ近接不可能ナルヘキハ想像ニ餘リアル所ナルヲ以テデカ
 ストリ揚陸ヲ斷念シ更ニ三笠及見島ヲ以テ樺太方面揚陸地點ヲ偵
 察セシメタルカ亞港附近ハ厚サ一尺乃至二尺ノ氷原ヲ以テ蔽ハレ
 然モ一時間^{平均}五哩ノ流速ヲ以テサ移動シ且水面隨所ニ大罅裂アリテ
 運送船ノ近接ハ勿論陸軍兵ノ氷上行軍ハ多大ノ危險ヲ伴フノミナ
 ラス假ニ陸岸ニ到達シ得タリトスルモ亞港以南ハ海岸急峻ニシテ
 道路ナク行軍ハ樺太中央道路ニ依ルノ外策ナキヲ以テ救援軍ノ揚
 陸地點ハ邦領樺太久春内ヲ措テ他ニ求ムヘカラサルノ情勢ニ達セ
 リ然ルニ久春内ヨリ亞港迄ノ極距離ハ約百哩ニシテ亞港尼港間ノ
 距離氷上約九十五哩ナルヲ以テ陸軍部隊行軍ノ困難ナル想像ニ
 難カラサル所ニシテ或ハ意外ノ犠牲ヲ拂フナキヲ保ヤサルノミナ
 ラス假令諸般ノ劃策實施圓滑ニ進歩スルトスルモ尙且尼港到達期
 ハ最善ノ狀況ニ於テ四月末ニシテ恰モ解氷期ニ先ツ僅ニ二旬ニ過

(報文社稿)

キス

狀況敍上ノ如クナルヲ以テ本救援計畫ハ暫ク中止スルノ止ムナキ
ニ至リ運送船ニ乗船シ小樽ニ於テ待命中ナリシ救援軍ニ對シ三
月八日一旦駐屯地ニ在テ待令ヲ命セラル越テ四月中旬解氷期ノ近
接ヲ待チテ今次救援軍ノ策動ヲ見タルモ時己ニ遅ク救援ノ目的ヲ
達スル能ハサリシハ寔ニ遺憾千萬ニシテ痛恨ニ堪ヘス
右様ノ次第ニシテ當局トシテハ救援ニ關シ最善ノ努力ヲ致シタル
ヲ諒セラルヘシ

論者或ハ何故ニ碎氷船ヲ使用セサリシヤヲ疑ハンモ間宮海峡方面
三乃至四呎ノ氷厚ニ對シテハ現時ノ碎氷船ヲ以テシテハ艦隊ノ航
路ヲ開通スルハ全然不可能ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ浦
潮ニ於ケル最強力ノモノヲ以テスルモ氷厚五呎ニ對シテハ前進後
退ヲ反覆シ難シテ自己ノ位置ヲ保チ得ルニ過キスシテ碎氷ニ依

(報文計納)

四、參考距離表別表

リ他船ノ航路ヲ開通スルカ如キ能力ヲ有セス況ヤ其ノ他ノ碎氷船ヲ以テスルオヤ

四、参考距離表ニ別表